

FIDIC-YPF Meeting 報告

株式会社日水コン 東京下水道事業部技術第二部設計第二課長
YPF・YPEP 分科会長 秋永 薫 児

開催日時：平成 16 年 9 月 12 日 12:00～13:45
場 所：コペンハーゲンラディソン SAS ホテル
Directors Room

参加者：Gregs Thomopoulos (USA), Ben Novak
(Canada), Glint Koopman (South Africa),
Brigitte Koch Jakobsen (Denmark), Enrico Vink
(NZ), Anna West (Australia), Yoshihiko
Yamashita (Japan), Yoshihisa Asada (Japan), Yuji
Furukata (Japan) Youichi Takemura (Japan)
Nagao Hayabusa (Japan) and Kunji Akinaga
(Japan)

Moderator：Gregs Thomopoulos

Chair：Kunji Akinaga

Recorder：Anna West

内容

事前に用意していた議事次第および提案内容を基に議事を進めようとしたのですが、いきなり、Operational Rules の取り扱いについて Gregs 氏から発言があり、理事会にかけたところフォーマルすぎるので、再度見直す必要があり、FIDIC 理事会からの承認を得る必要のあること、及び YPF の委員会にて議論を進めていくことの確認が行われました。会議では活発な意見交換があり、内容の濃い会議でありましたが、Ben Novak (Canada)、Glint Koopman (South Africa) の予定外の参加者があったこと、さらにデンマーク協会が主導した若手への MTP (Management Training Programme) との関係はどうするかなどの懸案事項があり、Chair 役を仰せつかった立場としては大変やり難い会議でした。そのような中で、山下氏、Gregs 氏のフォローによって何とか会議の決論をまとめるに至りました。

会議の途中、FIDIC 会長の Kell 氏が挨拶にこられて、FIDIC-EC が YPF への大きな期待を持っていること、Young の定義を 40 歳とすること、EC のサブ組織としてよりフォーマルな運営を行うこと、EC と MA の 2 つのフォーマルな組織からなり、独自のプログラムをもつユニバーサルプラットフォームであること、FIDIC としては YPF が何を知りたいのか、FIDIC が将来のために何をどうしたらよいかを知りたい、という内容の発言をされました。

予定されていた議事項目は、次頁に示すような項目であり、事前に各項目に関する AJCE からの提案書を関係者にメールにて送付しておきましたが、会議が始まると FIDIC-YPF の組織強化に重点がおかれ、提案書に記載した討議テーマやスケジュールについては直接議論とはなりませんでした。

YPF の活動としてアンケート調査を行いました。事前に配布した各 MA からの回答は大会開催時点では回収できず、会議の冒頭でコメントを行う予定が何もできない状況となりました。アンケート調査活動については、受付付近で MA 対象以外に個人対象のアンケート調査を行い、AJCE 関係者の協力を得て、受付横にて直接手渡ししながらの依頼を行い、大会終了時点で 25 通の回答を得ることができました。

会議の中で決定、確認されたことは、

- 1) 現在の EC (Executive Committee) を Steering Committee と改名する
- 2) 秋永が Chair を務める
- 3) FIDIC-EC とのリエゾン組織である
- 4) Principle MA にフランスと南アフリカを加え、13 カ国とする
となりました。

そのほか、話題となったのは、40歳以上は登録制にする？意見のコレクターが必要、YPFは各会社からのサポートが必要、YPFは自由に活動できる組織であること、議長はCommitteeの空席を常に埋める様に依頼を続ける、コペンで始まり、ゆっくりと成長していくこと、WebでほかのMAの組織や活動状態がわかるようにリンクをつくる、オーストラリアのFuture Netとデンマークのモデルをもとにキックオフする、水曜日にMTPの報告があり、集まる若手を取り込む、FIDICのWebサイトをどのように使っていくか議論すべき、General Net-Workingを構築する？どのような貢献ができるのかを考える、デンマーク協会のNet-Workでの経験(MTP)をどう生かすかについて担当のBirgitteさんと連絡をとること、などがありました。

このような議論のなかで、提案書の組織案に空欄のままとなっている国の代表グループおよび代表者名を各MAに記入してもらうこと、デンマーク協会の協力で若手の名簿を入手することが確認されました。会議では、YPF組織の意義やいくつかの協会でのYPF的組織の話などが出てきて、会議の大半はそれに費やされ、私にも数回意見を求められる状況となり、なかなか議事内容に戻すことができませんでした。1時間ほど経過したあたりからすこし落ち着いて、上記Principal MAの確認と追加の話となった次第です。その時点で1時間半以上が経過し、ようやく組織案が承認されました。その時にスケジュールの確認、Net討論の議題について話し合いたかったのですが、時間も迫っていたこともあって、事前に用意してもらったオーストラリアのFuture Netの紹介をAnna Westさんに行ってもらおうこととしました。そして質疑応答を経て、しばし雑談の後、閉会しました。

議事項目(予定項目)

1. Introduction: present condition of YPF activities of MAs based on the analysis of the survey. Comments for future activities. (15 minutes)
2. Discussion of the following topics:
 - 1) Organization of FIDIC YPF (20minutes)
 - a) Actual organization members
 - b) Decision maker
 - c) Contact committee of principal MAs' YPF groups and representatives
 - 2) Proposed Action Schedule in 2004 and 2005 (15 minutes)
 - a) A draft shown on the other sheet
 - b) Scheduling for the next conference
 - 3) Web site discussion and network among MAs (30 minutes)
 - a) Topics to discuss in the network
 - b) Registered people as YPF network
 - c) Responsibility for the web site construction
 - d) Web site construction schedule
3. Confirmation of TOR, Operational rules for YPF (15minutes)
4. Other information